

各部会報告資料

- ・くらし部会(P1~2)
- ・子ども部会(P3)
- ・就労部会(P4)
- ・相談支援部会(P5~7)
- ・精神障がい者地域移行支援部会(P8)

平成 25 年 11 月 15 日

熊本市障がい者自立支援協議会

くらし部会

【これまでの経過】

◎当事者交流会企画検討

9月・各セッションの配置図、当日必要スタッフ数の確認

- ・タイムスケジュールの作成（全体的流れは広報グループで作成し、詳細は各部門で作成）
- ・ポスターとチラシについて作成

10月・広報、申し込み受付の開始（10/1）

11月・くらし部会全体での確認（11/5）

- ・参加者名簿の作成（11/25まで）
- ・参加可能スタッフ数の確定
- ・スタッフマニュアルの作成
- ・各部門最終チェック、準備（11/25）
- ・当日スタッフの打ち合わせ、交流会の実施（11/30）

<当日スケジュール>

13:00～ 開場・受付

13:30～ 開会

13:40～14:00 オリエンテーション→男女混合グループ別活動

- ① 自己紹介レクリエーションの説明
- ② 自己紹介レクリエーションの開始

14:05～14:45 レクリエーション→全体活動

- ① 準備運動 くまモン体操
- ② じゃんけんゲーム
- ③ ひごまる君クイズ

14:45～休憩

15:00～16:00 茶話会グループ→男女混合グループ別活動

テーマ「あかるく たのしく」

フリートーク 5名×10グループ

16:00～ 閉会

16:00～17:00 交流会反省会（スタッフ）

【今後の予定】

1 2月・当事者交流会に関するまとめ

- ・事例検討（H24 年度検討事例）

1 月・ヨカ余暇情報便利帳の見直し

- ・事例検討（H24 年度検討事例）グループ討議

2 月・ヨカ余暇情報便利帳の見直し

- ・事例検討（H24 年度検討事例）グループ討議
- ・次年度計画案

3 月・平成 25 年度のまとめ

子ども部会報告《平成 25 年 8 月から 10 月》

8 月；困難事例検討・14 歳の両親離婚後父親に引き取られ、様々な問題に突き当たり、治療的関与が出来る奇異になる存在が欲しかったケース。

ミニ講座；自閉症協会の活動と報告

8 月の第 2 回自立支援協議会の報告；「特に子ども部会としての提言項目についてを中心に、」又、「障害児・者サポーター制度にかける期待等」

これに関連して、アンケートの提言についての報告方法等についての障害保健福祉課からの御意見

9 月；ミニ講座；先月の困難事例を受けて熊本県情緒障害児短期治療施設「こども L・E・C センター」松本氏より施設概要、情緒障害児短期治療の為の入所・通所のそれぞれの内容と狙い、教育棟での地域学校の分教室及び本校との通級での授業の取り組みなどの紹介のあと、短期治療による成功例などの具体的報告、質疑、情報交換を行った。

10 月；子ども部会で扱ってきて、個人や小さな組織では困難だった問題、地域啓発と協力体制作りに関して市のサポーター制度が力を発揮していくのではないかと期待から、この話しを事務局より説明を受けた後、3 グループに別れ、どのような場面でどのような支援や協力が欲しいのか、又、どのような団体等にサポーターになって欲しいのかなどを検討しあった。

今後の方向

- 1、アンケートのまとめ方については、子ども部会としてではなく、自立支援協議会会長名で、子ども部会も併記させていただく形で行う。
題は「障害児保育アンケート結果のご報告と提案」として、お渡しする相手は、市長とする。次回協議会の時点で、提出することが出来るよう、会長と打ち合わせしながら用意したい。
- 2、サポーター制度へかける思いや子ども部会としての願いは次回の子ども部会でもう少し整理し練って、文章化して、障害保健福祉課へ提出したい。
- 3、学童期の支援の中の、余暇活動についてのまとめを来年度前半までに、まとめて形としたい。出来るだけ生の確認された情報を、整理し、まとめると同時に、体験イベントが実施できるようにしたい。
文化活動とスポーツ活動、制作活動などを行いたい。

平成25年度 第3回熊本市障がい者自立支援協議会 就労部会報告

これまでの活動内容について

今年度は「ガイド・PR班」、「研修班」、「福祉計画班」の3班に分かれ、各班で年間目標と具体的な実施計画を策定し、それぞれ順調に作業を進めております。10月より12月の中間報告を意識し、それぞれの作業のまとめの段階となっております。また、第2回の自立支援協議会で取り上げられた議題でのA型事業所の課題について、就労部会でもそれらに対する解決策を考えたいと10月の部会より「A型検討班（仮称）」を発足しました。第4回の自立支援協議会で報告・提案できるように改善策を検討しております。

【各作業班の目標・計画】

- 研修班** ◇参加者の就労支援のスキルアップを目的とした内部研修を毎月開催
- ・9月：「イトコサガシワークショップ」
 - ・10月：「発達障がい者の方に対する職業センターの取り組み」
 - ・11月：「熊本市の新たな取り組みについて」
- ＊11月で内部研修は終了（全6回実施）
- ◇外部研修を開催予定（年1回）
- ・テーマ：「発達障がいのある方の就労支援について」に決定
 - ・開催日時：平成25年2月8日（金）午後1時30分～4時30分
 - ・開催場所：ウェルパル大会議室
 - ・対象者：当事者の方・ご家族・学校の先生・支援者等（約150名）
- ガイド班** ◇昨年度作成したガイド集の更新、バージョンアップ
→新規事業所を加えた新たなガイド集を12月にホームページに掲載予定
- ◇情報発信集「しごといく」の第2弾を作成
→予算の都合上、市のホームページに掲載することとなる
- 福祉計画班** ◇就労継続支援A型・B型事業所へのアンケート調査の実施
→10月にメールにて発送→11月に回収→12月の中間報告で発表
- A型検討班** ◇A型事業所の現状と課題を整理し、それらの改善策を検討中

今後の計画について

12月の中間報告までに各作業を仕上げていくとともに就労部会全体で主催研修会の開催に向けての準備をすすめていく。

平成 25 年度 第 3 回熊本市障がい者自立支援協議会
相談支援部会報告

25 年度の活動内容について

相談支援部会は「相談支援専門員の質の向上」「熊本市における相談支援体制の強化」「相談支援事業所の情報の共有」「効率的な計画相談の対応に向けた基盤作り」を目標に取り組む。

熊本市相談支援補助事業所 15 事業所と特定相談のみの事業所と一緒に熊本市の相談支援や計画相談体制についての意見交換や情報の共有、研修を実施している。

参加者は、毎回 20 事業所以上 30 名前後。

年間計画

※別紙添付

部会報告

第 3 回（8 月）

※グループワーク

「サービス等利用計画作成のチェック表作成」

- ・ サービス担当者会議、モニタリング、アセスメントの書式の統一について
- ・ アセスメント票の例紹介

「相談支援部会で取組みたいこと、目標に対し具体的な取組を意見交換」

- ・ 介護保険と障がい福祉サービス（生活保護）の関係性
- ・ 障害程度区分の勉強会
- ・ ミニ研修会の実施
- ・ 相談支援事業所の情報交換、情報共有のためのグループワーク
- ・ 困難事例の検討

第 4 回（9 月）

※行政と相談支援事業所と確認、意見交換

- ・ 熊本市障がい保健福祉課より、現行の相談支援事業についての課題と今後の検討事項として、「新たな取組みの概要紹介について」の資料に基づいて説明
（25 年度）方針決定・予算要求 （27 年度）公募 （27 年度）委託開始
- ・ 月の相談支援報告書のカウントの仕方
- ・ 計画相談支援について現状と課題（受け入れ人数、更新者の期限ぎりぎりの相談、介

護保険第2号保険者の対応など)

第5回(10月)

※相談支援事業についての説明と意見交換

- ・地域活動支援センターとの関係
- ・委託相談支援事業所数、人員配置、資格条件
- ・3障害対応体制
- ・母体施設敷地外に事業所設置の件
- ・基幹相談支援センターの設置
- ・計画相談支援の対応 など

平成25年度「相談支援部会」年間計画

【相談支援部会目標】

- ・相談支援専門員の質の向上
- ・熊本市における相談支援体制の強化
- ・相談支援事業所の情報の共有
- ・効率的な計画相談の対応に向けた基盤作り

月	前半	後半
4月		
5月		
6月		
7月	サービス等利用計画作成のチェック表作成	【グループワーク(Q&A作り、意見交換)】 ※グループに関してはその都度設定
8月	サービス等利用計画作成のチェック表作成	相談支援部会で取組みたいこと、目標に対し具体的な取組を意見交換
9月	区担当者との計画相談についての意見交換	
10月	平成27年度からの相談支援体制についての意見交換	
11月	相談支援体制について意見交換	意見交換、グループワーク
12月	ミニ研修(内容未定)	意見交換、グループワーク
1月		意見交換、グループワーク
2月	ミニ研修(内容未定)	意見交換、グループワーク
3月	年度まとめ、来年度への取り組み	

平成25年度 精神障がい者地域移行支援部会(障がい者自立生活体制検討会)活動経過 〈全体検討・研修会〉

	テーマ	内容
7月	ピアサポートの活用について (ピアサポーターとの意見交換)	3名のピアサポーターが参加、昨年度の活動の実績を報告し、参加者との意見交換を行った。
8月	精神障がい者の地域生活支援 講師:こころの健康センター 井形医師	モデル事業であるアウトリーチ推進事業の現状報告と共に、アウトリーチの理念、ACTや保健所の相談支援との違い、事業の対象者等について説明を受けた。
9月	退院支援・地域支援の実践報告 講師:地域体制整備アドバイザー 大嵐 高昭 氏、大関 宏治 氏 崎山 徹 氏	<ul style="list-style-type: none"> ・院内で行われている退院支援におけるチームアプローチの実際(事例報告) ・地域移行支援事業の経過、他都市の事業の状況、事業の活用の仕方と今後の課題 ・地域移行推進員の経験から得た当事者支援のポイント
10月	WRAPについて	WRAP(元気回復行動プラン)とは何か、DVDにて研究会の活動やクラスの様子を知る。

※今後は、小グループによる事例検討、高齢福祉関係の制度研修等の実施を予定。

〈グループワーク〉

テーマ	今後の取り組みに関する検討内容
普及啓発グループA (病院・事業所等の専門職対象)	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度に地域移行支援・地域定着支援(個別給付)のポスターを作成して各病院へ配布したが、他の職種の関心や制度についての理解がまだ薄い。 →病院の各専門職を対象としたアンケート(制度・事業の認知度や課題)を実施し、現状を把握する。
普及啓発グループB (地域住民・当事者等対象)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民とのトラブルにより退院が困難な事例や、施設・病院と地域住民との関わりが難しいケースがある。 →地域のキーパーソンでもある民生委員や自治会長を対象とした研修会を企画する。まずは、各機関が地域とどのように連携しているか現状確認し、研修方法等を検討する。
ピアサポート活用グループ	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度からピアサポート活用を開始し、ポスター・リーフレットを作成して啓発をしたが、実績はまだ少ない。ピアサポーターが実際にできることが見えにくい現状がある。 →事業を普及する目的を明確にし、継続した病院へのアプローチ方法を、ピアサポーターと協働して検討する。